

亀山城・榎ヶ城

《吉田町長屋》

シリーズ「お城拝見！」第六十九回

安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 秋本哲治

編集後記

6月・7月のこの梅雨の時期は、特に屋外での活動を行う上で、天候を心配されていました。今月は、取材中何度も雨に見舞われ、そのことを実感しました。8月以降は、水分補給や暑さ対策をしっかり行い、精力的に情報収集と提供を行っていきたいと思います。また、移住・定住に限らず人と人をつなぐネットワークづくりを促進していきたいと思いますので、皆様の情報提供もお願いします。(久光)



亀山城・榎ヶ城遠望(南側より撮影)

【登城ガイド】(亀山城、榎ヶ城)
標高 300m、285m
比高 100m、75m
史跡指定 未指定
城主 長屋氏?
所要時間/国道から 25分、15分

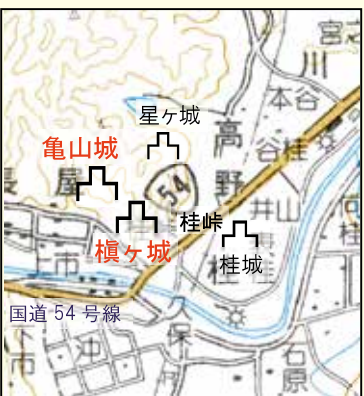
安芸高田市には、大字などの地名を姓にした中小の領主が数多くいました。桂氏や福原氏などがあるのですが、今回は「長屋氏」の城を紹介いたします。

立地：東に桂峠(現在の国道)、南に可愛川を見下ろす要衝に立地しています。両城は、200m離れた同じ尾根上で亀山城が少し高く、当時は一体的な城であった可能性もあります。またこの尾根は集落に接していますが、斜面は非常に急峻です。

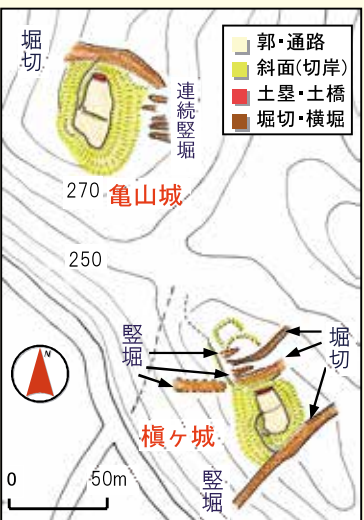
歴史：江戸中期の『高田郡村々覚書』では、榎ヶ城の城主が長屋下野守、亀山城が不明とあり、江戸後期の『芸藩通志』では共に長屋下野守が守ったとあります。長屋下野守とは、毛利家臣の長屋吉忠(元直)と思われる。吉忠は1480年生まれで1565年没との記録があります。『芸藩通志』の記述が事実であれば、この2つの城は16世紀初頭から中頃にかけて存在していたこととなります。

城跡：榎ヶ城は土塁を備えた郭が1つあるのみで、その南北にそれぞれ堀切を設けています。南側の堀切は西側が巨大な堅堀となり山腹へ伸びており、北側は堀切と堅堀が交互に並ぶ珍しい遺構です。亀山城も郭は1つで、北の背後に堀切、東側緩斜面に5本の連続堅堀が残ります。どちらの城も南側を向き、単独の郭に土塁や堀切・堅堀が附属するというよく似た形状です。

考察：長屋氏の出自は中馬氏で、さらに中馬氏は毛利一族です。つまり長屋氏は古参の家臣であり、桂氏とともに吉田の南口であるこの地を守っていたと考えられます。単純な形状ですが、多数の空堀からも要所であったと思われる。



周辺位置図



亀山城・榎ヶ城略測図(作図 秋本哲治)

「お茶会」取材では安芸高田市とは異なる文化を皆さんから教えてもらいました。青森の料理は広島よりも全体的に塩辛いとのこと。そして島根では「とんど」の文化が今はほとんどないとのこと。また東ティモールはコーヒー豆が有名とのこと。料理や文化・方言の違いを生で聞くことができ、貴重な体験になりました。取材に協力していただいた皆様、ありがとうございました。(森山)

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826) 42-5627 Fax.(0826) 42-4376 http://www.akitakata.jp/

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

Akitakata

NO.150
2016.Aug
8

ここに定住します

(今月の主な内容)

2ページ 平成28年度安芸高田市「仕事目標」

4ページ 【視点】定住促進

16ページ 2016 サンプレーチェ広島安芸高田市スポーツサークルゲーム報告

